



東京アートミーティング 第5回
新たな系譜学をもとめて
跳躍／痕跡／身体

2014.9

2014.9.27 Sat. - 2015.1.4 Sun.



「狂言劇場その七 MANSAIボレロ」2011年(世田谷パブリックシアター)撮影:政川慎治

現代アートと様々な分野の表現が会うことで、新たな可能性を探求する東京アートミーティング。第5回の東京アートミーティングのテーマは「身体パフォーマンス」です。

東京都現代美術館開館20周年事業の一つとなる本展は、私たちの身体が、パフォーマンスをとおして、発酵したり、変容したり、新たな創造の基盤となっていくことをみせるものです。先の見えにくい不安な時代、人は確かなものとしてまず自分の身体を確認しようとしています。この身体にある感覚や記憶や知恵がどこからきたのかに思いをはせるうち、遠いところまでその痕跡をたどっていったりするのです。

本展でいう「身体パフォーマンス」は、ダンス、能・狂言や歌舞伎などの伝統芸能、演劇、スポーツ、武道など広義の身体表現を含みます。それらは、言語を超えたコミュニケーションとして、あるいはローカルなポスや文化の記憶として、私たちの精神生活に深くかかわってきました。にもかかわらずそれらの多くは、アートの歴史において、モダニズムの価値観からとりこぼされてきたのです。

本展「新たな系譜学をもとめて」は、身体に残された記憶や知の痕跡が、それぞれの時代の表現にとりいれられ、新たな創造を産み出してきた系譜をたどり、現在の表現を新たな視点で見直す事を意図しています。今回は狂言師であり、現代演劇やパフォーマンスへの出演や演出でも活躍する野村萬斎を総合アドバイザーにおかえます。その身体は600年にわたる伝統の型を継承しながら、現代まで一気に跳躍して、さまざまな現代の表現と交わることで、新しい創造の遺伝子をつくりだしています。本展では、系譜をユニークな方法でたどることができます。例えば極限まで簡潔化された能の動き、狂言の形式化された感情表現は、1990年代以降、言葉を排して、ロボティックでミニマルな形の反復を特徴としたダムタイプの簡潔さと非表現性につながります。60年代の実験的なパフォーマンスを再発見し、映像や、体験的メディア装置として再生するシャロン・ロックハートやチョイ・カファイ。スポーツ選手の動きを分析的にとらえ、そのパフォーマンス性を新たな視点で見いだすダグラス・ゴードンらの作品、アマゾン先住民の世界観をインスタレーション内をめぐることによって観客に追体験させるエルネスト・ネトなど、多様なアプローチがあります。

本展示は、絵画、映像、インスタレーション、50年代以降の能や舞踏などの前衛の系譜をたどる資料展示や、会場内で行なわれるパフォーマンスとあわせて構成されます。

総合アドバイザー

野村 萬斎 のむら まんさい

狂言師。1966年生。人間国宝・野村万作の長男。祖父故6世野村万蔵及び父に師事。重要無形文化財総合指定者。

東京芸術大学音楽学部卒業。「狂言ござる乃座」主宰。国内外の狂言・能公演はもとより、現代劇や映画の主演、古典の技法を駆使した作品の演出、NHK『にほんごであそぼ』に出演するなど幅広く活躍。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。94年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、2012年度芸術祭優秀賞を受賞。著書に『萬斎でござる』『MANSAI◎解体新書』（朝日新聞出版）、『狂言サイボーグ』（日本経済新聞社）、『狂言三人三様・野村萬斎の巻』（岩波書店）等がある。世田谷パブリックシアター芸術監督。

1)

アートにおける従来のパフォーマンス展にはなかった、自在な時空間の移動によって系譜学をたどる旅があなたを待っています。600年分のワープ、あるいは現代から過去へ逆行する旅。室町時代、19世紀、50年代—そして現在へ。

2)

時間芸術であるパフォーマンスを空間的な展示としても体験できる様々なハイブリッドな試みが展開されます。チェルフィッチュ、岡田利規による“見出された”コレオグラフィが、観客が立つ位置によって、「ダンス」にも「演劇」にもみえる新作インスタレーション。加速するデジタルイメージと生身の身体を重ね、鋭い社会批評を展開してきたダムタイプ。彼らの過去から現在の創造が一つの空間に集約され、観客がその中を旅する新作インスタレーションとなります。

*ダムタイプの新作展示期間は9/27～11/16

3)

身体の動きが絵画表現につながった「具体」や、抽象表現主義の画家たちの作品の流れを、デジタル時代に継承した、今最も注目されている現代画家の一人、ジュリー・メーレトゥ。都市や建築の緻密なドローイングの上に大胆なストロークを重ねた、水墨画にも表現主義にもみえるメーレトゥの絵画を展示します。

4)

優れたパフォーマーの妙技、美技の秘密を視覚的に分析するアーティストのアプローチ。天才プレイヤー、ジダンをとらえた17台のカメラ。この映像を中田英寿が独自の視点で分析解説。野村萬斎の狂言から多様なジャンルへの取り組みまでをヴィジュアルアーカイブとして構成、ライブマティクスによるデザインで、一人の身体に刻まれた系譜学をたどります。他者の身体記憶を再現—シンガポールのチョイ・カファイによる歴代の名パフォーマーの動きを電気信号におきかえ、伝達するプロジェクト。

5)

インバル・ピントが初めて美術館用に制作した新作ダンスパフォーマンス「ウォールフラワー」—森山未来をはじめとする10人のダンサーが、壁から滑り出し空間に飛散する色とりどりの花を、身体を通して描き出します。画家でもあるインバルが描く、ダンスイメージのもとになった、幻想性とあたたかみにあふれたドローイング、本作の元となった初期ダンス作品「DIO-CAN」の記録をあわせて展示します。

6)

野村萬斎と高谷史郎のコラボレーションによるライブ—伝統と最先端クリエイションの出会い。野村が「三番叟」「ボレロ」を天井高20mのアトリウムを舞台に舞います。伝統を革新し続ける野村の身体が、高谷のハイパーデジタルセンシビリティによって構築された舞台装置の中で、未来においてさらなるワープをします。三番叟の舞が日食の間から光を呼び覚まします。(東京都現代美術館開館20周年記念事業として実施します。)

【東京文化発信プロジェクトとは】

東京文化発信プロジェクトは、「世界的な文化創造都市・東京」の実現に向けて、東京都と東京都歴史文化財団が、芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施している事業です。多くの人々が文化に主体的に関わる環境を整えるとともに、フェスティバルをはじめ多彩なプログラムを通じて、新たな東京文化を創造し、世界に発信していきます。

<http://www.bh-project.jp>

展覧会
作家一覧

チェルフिटチュ | chelfitsch

チョイ・カファイ | Ka Fai Choy

ダムタイプ | Dumb Type * 新作の展示期間 9/27~11/16

ダグラス・ゴードン & フィリップ・パレーノ | Douglas Gordon & Philippe Parreno

金氏徹平 | Teppei Kaneuji

シャロン・ロックハート | Sharon Lockhart

ノア・エシュコル | Noa Eshkol

アンリ・マティス | Henri Matisse * 展示期間 9/27~11/16

ジュリー・メーレトゥ | Julie Mehretu

村上三郎 | Saburo Murakami

エルネスト・ネト | Ernesto Neto

野村萬斎 | Mansai Nomura

大植真太郎+森山未来+平原慎太郎 | Shintaro Oue + Mirai Moriyama + Shintaro Hirahara

インバル・ピント & アブシャロム・ポラック・ダンスカンパニー
Inbal Pinto & Avshalom Pollak Dance Company

ジャクソン・ポロック | Jackson Pollock

デンツウ ラボトウキョウ & ライゾマティクス | Dentsu Lab Tokyo & Rhizomatiks

白髪一雄 | Kazuo Shiraga

田中敦子 | Atsuko Tanaka

サイ・トゥオンブリー | Cy Twombly

吉原治良 | Jiro Yoshihara

パフォーマンスプログラムA キュレーター: 中村茜

パフォーマンスプログラムB キュレーター: 塚原悠也 (contact Gonzo)

特別協力: 中田英寿 (《Zidane: A 21st Century Portrait》特別解説)

主な出品作家の解説はP7-8をご覧ください。

展覧会名	東京アートミーティング(第5回) 「新たな系譜学をもとめて-跳躍/痕跡/身体」
会期	2014(平成26)年9月27日(土)—2015(平成27)年1月4日(日)
開館時間	10:00~18:00(入場は17:30まで)
会場	東京都現代美術館 企画展示室1階、地下2階
休館日	月曜日(ただし10/13、11/3、11/24は開館) 10/14、11/4、11/25、12/28—2015/1/1
主催	東京都、東京都現代美術館・東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人 東京都歴史文化財団)、産経新聞社
特別協力	東京藝術大学、万作の会、ソニーPCL株式会社
助成	芸術文化振興基金 
後援	駐日イスラエル大使館 
協力	NECディスプレイソリューションズ株式会社、 世田谷パブリックシアター(公益財団法人せたがや文化財団)、 DMM.com
観覧料	一般1,200円/大学生・65歳以上900円/ 中高生600円 *小学生以下無料(保護者の同伴が必要です) *20名様以上の団体は2割引 *身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付き添いの方(2名まで)は無料 *本展のチケットで「MOTコレクション」もご覧いただけます。 同時開催の「ミシェル・ゴンドリーの世界一周」とのセット券もございます。 一般1,600円/大学生・65歳以上1,300円/ 中高生900円
交通案内	東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2番出口より徒歩9分 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3番出口より徒歩13分
展覧会カタログ	「新たな系譜学をもとめて—アート・身体・パフォーマンス(仮)」 2014年10月下旬刊行予定 発売・発行/フィルムアート社
お問い合わせ	東京都江東区三好4-1-1 03-5245-4111(代表)/ 03-5777-8600(ハローダイヤル) http://www.mot-art-museum.jp/
総合アドバイザー	野村萬斎
企画	長谷川祐子(東京都現代美術館 チーフ・キュレーター)
展覧会スタッフ	吉崎和彦、崔敬華、加藤弘子(東京都現代美術館)
同時開催	「ミシェル・ゴンドリーの世界一周」 「MOTコレクション コンタクト」 *会期はすべて2014年9月27日(土)~2015年1月4日(日)
広報お問い合わせ	東京都現代美術館 事業推進課企画係 広報班 野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp 中島三保子 m-nakajima@mot-art.jp TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141

公演プログラム

インバル・ピント&アブシャロム・ポラックダンスカンパニー 「ウォールフラワー」

2014年10月24日(金)19:00開演 | 25日(土)14:00/19:00開演 | 26(日)11:00/ 15:00開演

料金:別途公演チケットが必要となります。

※チケットの発売時期、購入方法等の詳細につきましては当館ホームページにて随時更新します。

野村萬斎+高谷史郎 「三番叟」、「ボレロ」

「三番叟」 2014年12月3日(水)

「ボレロ」 12月17日(水)

料金:別途公演チケットが必要となります。

※開演時間、チケットの発売時期、購入方法等の詳細につきましては当館ホームページにて随時更新します。

岡田利規「ポストラップ」

2014年12月23日(祝・火)12:00/14:00/16:00開演

料金:本展覧会チケットでご覧いただけます。

上記全て会場:東京都現代美術館企画展示室地下2階アトリウム

上記公演に加え、会期中、国内およびアジア地域のパフォーマンスを紹介するプログラムを開催します。本プログラム・キュレーターとして、これまでパフォーミングアーツ企画を数多くプロデュースしてきた中村茜と、アーティストユニットcontact Gonzoのメンバーとして美術とダンスの分野を横断的に活動する塚原悠也を迎え、国内外で活躍する二人の視点からアートとパフォーマンスのもう一つの系譜をたどります。

企画詳細につきましては、当館ホームページにて発表します。

プログラムA(企画:中村茜) :10月開催予定

プログラムB(企画:塚原悠也):12月開催予定

関連イベント

出品作家によるアーティスト・トーク

日時:2014年9月27日(土)

15:00~チョイ・カファイによるレクチャー & デモパフォーマンス

15:30~高谷史郎(ダムタイプ)他

渡邊守章講演会

日時:2014年11月22日(土)13:00開始

中田英寿トークイベント

日時:2014年11月30日(日)15:00開始

いずれも会場:東京都現代美術館企画展示室地下2階アトリウム

ダムタイプ

1984年京都市立芸術大学の学生を中心に結成されたアーティストグループ。美術、演劇、ダンス、音楽、映像、建築、デザインなど異なる専門領域で活動する個々のメンバーがその経験と知識を持ち寄り、映像や音響、テクノロジーを駆使した舞台装置とパフォーマーの生身の身体によって構成されるパフォーマンスやインスタレーションを発表してきた。その作品は、高度情報化社会や消費主義、ジェンダー、エイズなどをめぐる問題、生と死の境界などを主題として扱い、国際的にも高く評価されてきた。本展では、いままでのパフォーマンス作品群を俯瞰的に再構成し、ダムタイプの世界を映像と音で構成した新作インスタレーションを展示する。



チェルフिटチュ

岡田利規が全作品の脚本と演出を務める演劇カンパニーとして1997年に設立。チェルフिटチュ(chelfitsch)とは、自分本位という意味の英単語セルフフィッシュ(selfish)が、明晰に発語されぬまま幼児語化した造語。2006年『三月の5日間』で第49回岸田國士戯曲賞を受賞して以来、その独特な言葉と身体の関係性を用いた手法により従来の演劇の概念を覆すと評価され、現代を代表する演劇カンパニーとして国内外で高い注目を集める。その日常的所作を誇張しているような／していないようなだらだらとしてノイジーな身体性は時にダンス的とも評価される。つねに言葉と身体の関係性を軸に方法論を更新し続け、2012年『現在地』以降はフィクションへの探求のもと創作に取り組んでいる。



本展では、台詞と動きを分離させる仕掛けで、パフォーマーの動きがダンスとも演劇とも見える新作インスタレーション、『4つの瑣末な、駅のあるある』を出品。あわせて、新領域への挑戦として、ラッパーによく見られる身体の動きを更新すべく独自に振り付ける「ポストラップ」をテーマとした新作パフォーマンスを見せる。

金氏徹平

1978年京都府生まれ。現在京都府在住。私たちの日常生活でよく目にするような日用品やおもちゃなどを組み合わせて白い石膏や樹脂で覆った彫刻や、ぬり絵の線を切り抜いてつなぎ合わせたコラージュ作品などで知られる。2011年岡田利規が演出し、ダンサーである森山開次が上演した「家電のように解り合えない」において金氏は舞台装置を制作した。



本展では、舞台装置をインスタレーションとして再構成する。

大植真太郎+森山未来+平原慎太郎

コンテンポラリーダンスの分野で活躍する大植真太郎+森山未来+平原慎太郎の3人によってつくられたウェブダンスプロジェクトユニット。

ウェブ上に浮遊しているさまざまな映像を、「これがダンスに見える日」というコンセプトのもとに集めたダンサー3人によるキュレイトリアルプロジェクト。深海でのイカの動きや風に吹かれるビニール袋の動きまで多様な映像が、これらが3人のインスピレーションによってクラシックバレエ、ジャズダンスなどダンスの種類に分類され、QRコードに変換された形で、壁に掲示される。ソーシャルネットワークの中を可能性の海と見立て、あらゆるものがダンスになりうるという、想像力と視点の拡張を見る者に呼びかける若いクリエイターたちの試みである。

主な出品作家 紹介

シャロン・ロックハート & ノア・エシュコル

ノア・エシュコルは1924年現イスラエルのキブツ・ダガニヤ・ベートで生まれる。イスラエル人振付家、テキスタイル・アーティスト。1958年、建築家アブラハム・ヴァハマンとともに「エシュコル=ヴァハマン式記譜法」というダンスの記譜法を開発したことで著名。アーティストとして自身が「ウォール・カーペット」と呼ぶパッチワーク作品を制作。父はイスラエルの元首相レヴィ・エシュコル(1895-1969)。2007年没。シャロン・ロックハートは1964年アメリカ、ノーウッド生まれ、ロサンゼルス在住。1990年代初頭より映像と写真をメディアとした作品を制作・発表している。2008年にロックハートがイスラエルに調査旅行に行った際にエシュコルのアーカイヴや作品に出会い、感銘を受ける。これを契機にロックハートはエシュコルのダンスやパッチワーク作品を撮影した映像作品を制作。

本展ではロックハートの映像インスタレーション《エシュコル=ヴァハマン式記譜法における4つのエクササイズ》(2011年)と、エシュコルの「ウォール・カーペット」シリーズやアーカイヴを展示予定。ダンサーの年齢や鍛錬を問わない、基本的な身体の動きを組み合わせてつくったシンプルだがヴァリエーションに富んだダンスと、はぎれをそのままに組み合わせてつくった豊かな色彩と情感を持ったパッチワーク作品は、日常的なものに美学的構成を見出していくエシュコルの知的でやわらかな感性を反映している。



ダグラス・ゴードン & フィリップ・パレーノ

ダグラス・ゴードンは1966年グラスゴー生まれ。現在ベルリンおよびグラスゴー在住。フィリップ・パレーノは1964年アルジェリア生まれ。現在パリ在住。

ゴードンとパレーノは2006年、サッカー選手ジネディーヌ・ジダンを撮影した《Zidane: A 21st Century Portrait》を共同制作し発表。本作は2005年スペインのプロサッカーリーグ、レアルマドリードの試合においてスター選手のジダンのみを17台のカメラを使って撮影し、試合中におけるあらゆる身体の動きや表情を徹底的に記録した。2006年第59回カンヌ国際映画祭において招待上映。本展では、2チャンネルの映像インスタレーションとして出品する。(本作品とあわせジダンの動きを独自の視点で分析的に語った中田英寿による特別解説映像も展示します。)



チョイ・カファイ

1979年シンガポール生まれ。チョイは、メディアアーティスト、演出家としてダンス、演劇、美術の領域を横断して活動している。2007年から2009年までシンガポールのシアターカンパニー「シアターワークス(TheatreWorks)」でアソシエイト・アーティストティック・ディレクターを務める。本展出品作の《ノーション:ダンス・フィクション》(2010年-)は、ピナ・バウシュや土方巽といったダンスの巨匠たちの動きを電気信号に変換し、それを電流として人間の筋肉に流しコントロールすることによって、他者の身体で再現するプロジェクト。テクノロジーによって身体の記憶をいかに継承できるのか探求した作品。



インバル・ピント & アブシャロム・ポラック・ダンスカンパニー

バットシェバ舞踊団でダンサーとして活躍していたインバル・ピント(1969-)と、俳優として映画や舞台上で活躍していたアブシャロム・ポラック(1970-)によって1992年に結成されたイスラエルのダンスカンパニー。テルアビブを拠点に世界各国で公演し、数々の賞を受賞している。

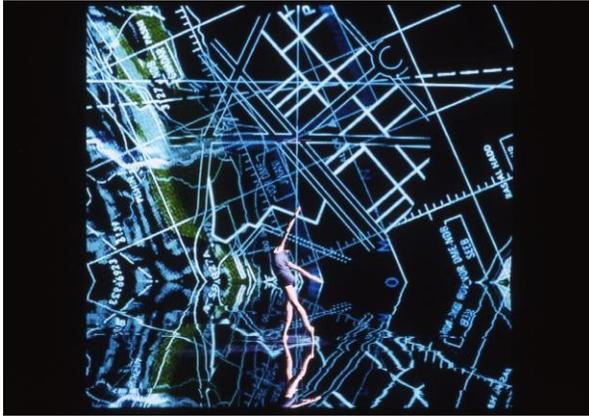
日本では、2001年と2005年に「オイスター」(神奈川県民ホール、世田谷パブリックシアター)、2007年に「ヒュドラ」(彩の国さいたま芸術劇場)、2012年に「ボンビックスモリ with ラッシュ」(世田谷パブリックシアター他)等の公演を行っている。本展では美術館の空間を使った新作公演「ウォールフラワー」を会期中に行う予定。カラフルな衣装を着たダンサーたちが壁伝いに現れ、絵の具のタッチとなり壁に絵画を描くようにダンスを展開したあと、床へと滑り出て立体的に交差していく、コミュニケーションや絵画から立体への移行などさまざまな意味を感じさせる作品。



広報用図版

広報用として10点をご用意しております。

掲載ご希望の方はお手数ですが別紙にご記入の上、FAXもしくはメールにてご連絡ください。



広報用画像①

ダムタイプ「Voyage」2002年 Photo: Kazuo Fukunaga [参考図版]



広報用画像②

ジュリー・メレトゥ「The Round City (Hatshepsut)」2013年 KRAVIS COLLECTION



広報用画像③

インバル・ピント & アブシャロム・ボラック・ダンスカンパニー
「ウォールフラワー」2014年7月 Photo: Rotem Mizrahi



広報用画像④

チェルフィツェ「スーパープレミアムソフトW・バナナリッチ」2014年 © Christian Kleiner
[参考図版]



広報用画像⑤

シャロン・ロックハート「Five Dances and Nine Wall Carpets by Noa Eshkol」2011年

© Sharon Lockhart, 2011 Photo: Jens Ziehe, Berlin

Courtesy the artist, neugerriemschneider, Berlin, Gladstone Gallery, New York and Brussels, and Blum & Poe, Los Angeles.

[参考図版]

広報用図版



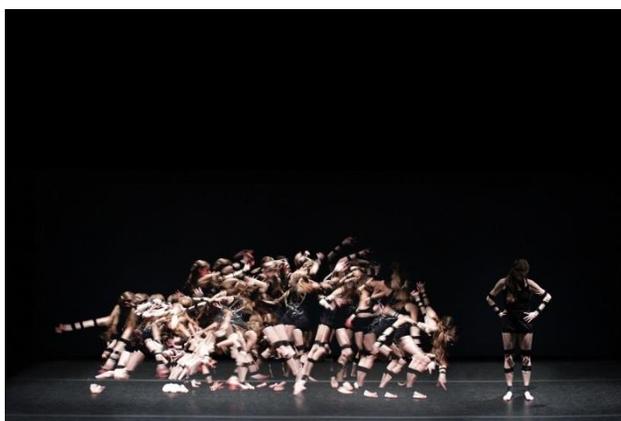
広報用画像⑥
金氏徹平《「家電のように解り合えない」のための舞台美術》
2011年(あうるすぽっと、東京)2011年 撮影:青木司



広報用画像⑦
エルネスト・ネット《hene yube rio jiboia gente é um sopra que atravessa a gente》
2014年 Installation view at CCBB Brasilia Photo: Joana França



広報用画像⑧
ダグラス・ゴードン & フィリップ・パレーノ《Zidane: A 21st Century Portrait》2006年
Courtesy Studio lost but found, Berlin; Studio Philippe Parreno, Paris; Anna Lena Films, Paris.



広報用画像⑨
チョイ・カファイ《Prospectus For A Future Body》プロジェクトポスター 2013年



広報用画像⑩
「狂言劇場々の巻 三番叟」2004年(世田谷パブリックシアター)撮影:政川慎治

広報お問い合わせ先

東京都現代美術館 広報班

TEL 03-5245-1134(広報直通) FAX 03-5245-1141

野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp 中島三保子 m-nakajima@mot-art.jp

新たな系譜学をもとめて
跳躍／痕跡／身体

東京アートミーツイング 第5回

本展覧会広報用素材として、10点をご用意しております。

ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX又はEメールにてお申込みください。

なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

① キャプションは、作家名、作品名、制作年、コピーライト等を必ず表記ください。

② 作品のトリミング、文字載せはお控えください。

本展記事を紹介頂く場合には、恐れ入りますが情報確認の為の校正、掲載誌(紙)、DVD、CD等をお送りください。

媒体名： 『 _____ 』

○印をおつけください

種 別： TV ラジオ 新聞 雑誌 フリーペーパー
ネット媒体 携帯媒体 その他

発売・放送予定日： _____

御社名： _____

ご担当者名： _____

Eメールアドレス： _____ @ _____

(〒 _____ - _____)

ご住所： _____

お電話番号： _____

FAX： _____

ご希望の図版番号に ✓ をおつけください。

- ① ダムタイプ「Voyage」2002年 Photo: Kazuo Fukunaga [参考図版]
- ② ジュリー・メーレト「The Round City (Hatshepsut)」2013年 KRAVIS COLLECTION
- ③ インバル・ピント & アブシャロム・ボラック・ダンスカンパニー「ウォールフラワー」2014年7月 Photo: Rotem Mizrahi
- ④ チェルフィチュ「スーパープレミアムソフトWバニラリッチ」2014年 © Christian Kleiner [参考図版]
- ⑤ シャロン・ロックハート「Five Dances and Nine Wall Carpets by Noa Eshkol」2011年
© Sharon Lockhart, 2011 Photo: Jens Ziehe, Berlin Courtesy the artist, neugerriemschneider, Berlin, Gladstone Gallery, New York and Brussels, and Blum & Poe, Los Angeles. [参考図版]
- ⑥ 金氏徹平「家電のように解り合えない」のための舞台美術」2011年(あうるすぽっと、東京)2011年 撮影:青木司
- ⑦ エルネスト・ネット「hene yube rio jiboia gente é um sopra que atravessa a gente」2014年
Installation view at CCB B Brasília Photo: Joana França
- ⑧ ダグラス・ゴードン & フィリップ・パレーノ「Zidane: A 21st Century Portrait」2006年
Courtesy Studio lost but found, Berlin; Studio Philippe Parreno, Paris; Anna Lena Films, Paris.
- ⑨ チョイ・カファイ「Prospectus For A Future Body」プロジェクトポスター 2013年
- ⑩ 「狂言劇場その壺 三番壺」2004年(世田谷パブリックシアター)撮影:政川慎治

プレゼント用招待券をご希望の場合は✓をおつけください。 10名様 / 20名様

広報お問い合わせ先： 東京都現代美術館 事業推進課企画係 広報班

野口玲子 r-noguchi@mot-art.jp 中島三保子 m-nakajima@mot-art.jp

東京都江東区三好4-1-1 TEL.03-5245-1134(直通) / FAX.03-5245-1141